

初めての寮生活

高校 二年

櫻 木 友香莉

(庄原市立庄原中卒)

私が岡山白陵高校に入学してから一年が経ち、同時に茜寮に入寮して一年が過ぎました。この一年は様々な意味で私にとって変化の年でした。まだ、なつかしいと言う程昔の話ではありませんが、随分といるんなことがあったなと思います。

入寮したてのころ、私は寮の生活に慣れることがなかなかできませんでした。寮は集団生活の場です。常に他人の目があり、一人になることはまれです。たとえ一人の時間ができたとしても周囲の人や状況に注意して行動しなければなりません。元々田舎育ちで、家では独りで自室にこもることが多かった私には、辛いと思うことも多い毎日でした。また、そうした辛さを理解し励ましてくれる家族から遠く離れていることも、不安の一つでした。しかし、その辛さを乗り越えさせてくれたのも、また寮でした。通学に時間を割かれたり電車の時間に拘束されたりする通学生より、寮生は部活動なども参加しやすい状況にあり

ます。私はバレーボール部に所属していますが、部活動を通じての仲間ができ、思い切り体を動かすことで、学校にもかなり慣れることができました。また寮では、たくさんの人や、先輩、後輩が同じ生活を共有していますから、その中で自然といるんな人と様々な話をします。そのことを通じて、悩みや問題を相談できる友もできましたし、自分のわがままを見つめ直すことも、そして努力する先



(女子寮和室)



(女子寮)

輩の姿に学ぶ姿勢を感じ取ることもできるようになった気がします。今も、私にとって寮は楽しいばかりのところでは決してありません。規則もありますし、自宅と比べて窮屈な思いをすることも、友人とぶつかることも多々あります。しかし、だからこそこの一年間は私にとって濃密な時間だったと思います。これからもまた、姉妹のような仲間と楽しく、いろんなことを学び合っ

ていきたいと思えます。